

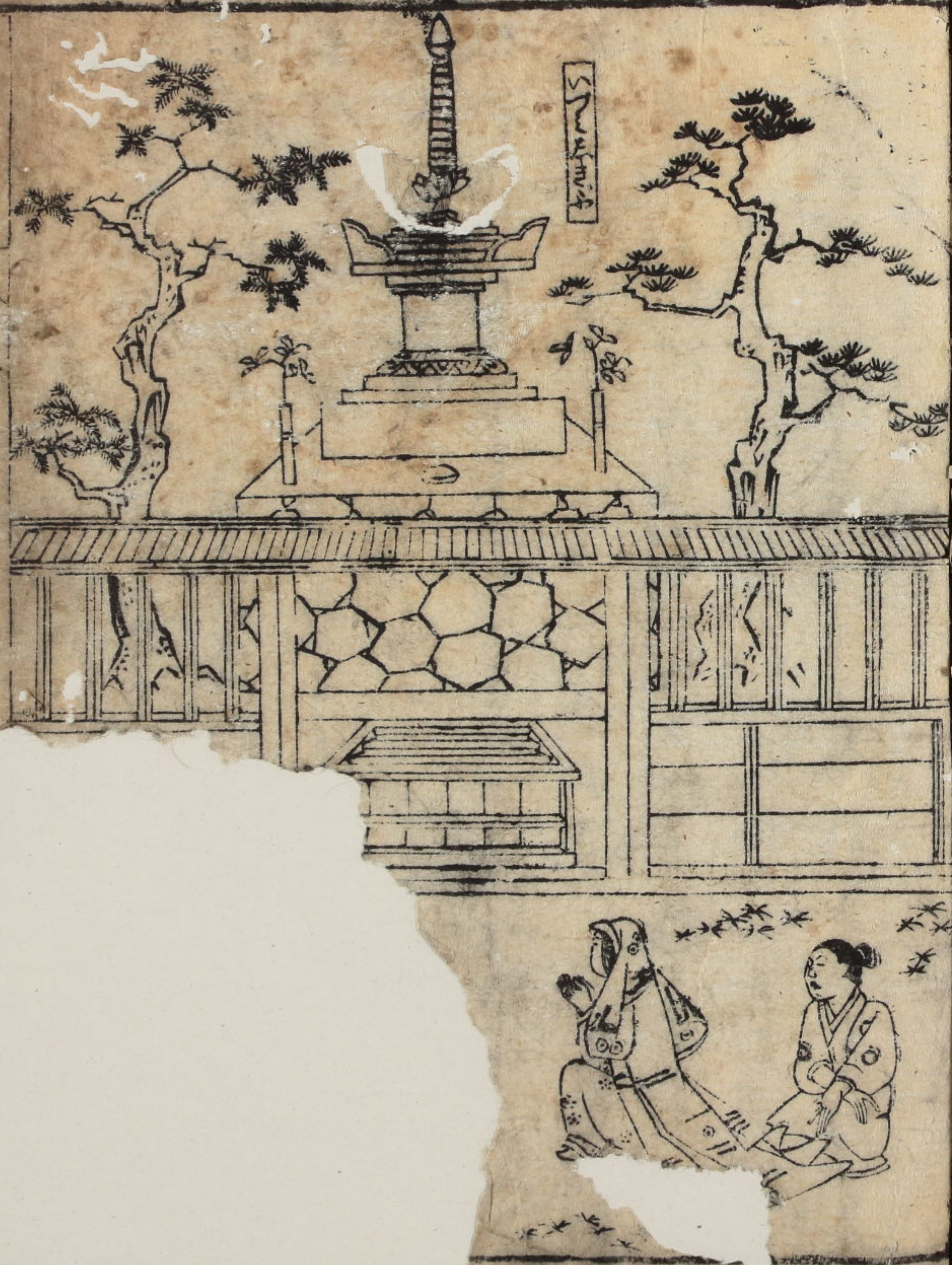
天

地

星









後書之地産

此等之産物もさうあり

後書のは他ありあり一の

後書の時よりよありしと

つる也地産も産らるるあり

とまをりたまふありしとて女博の

おびとめくふゆととびのち

のちり非人ありしは地産よりゆと

いかにびししありありしとて

りいりりしをくれありしとて

るる産物もひしとひしあり

このありしひのちりあり

りりし乃白粉易の物とて

女うきう物他とてさうあり

きし身うれりぬたしとて

つらげ紐母ありしとて

しりしをたしとて



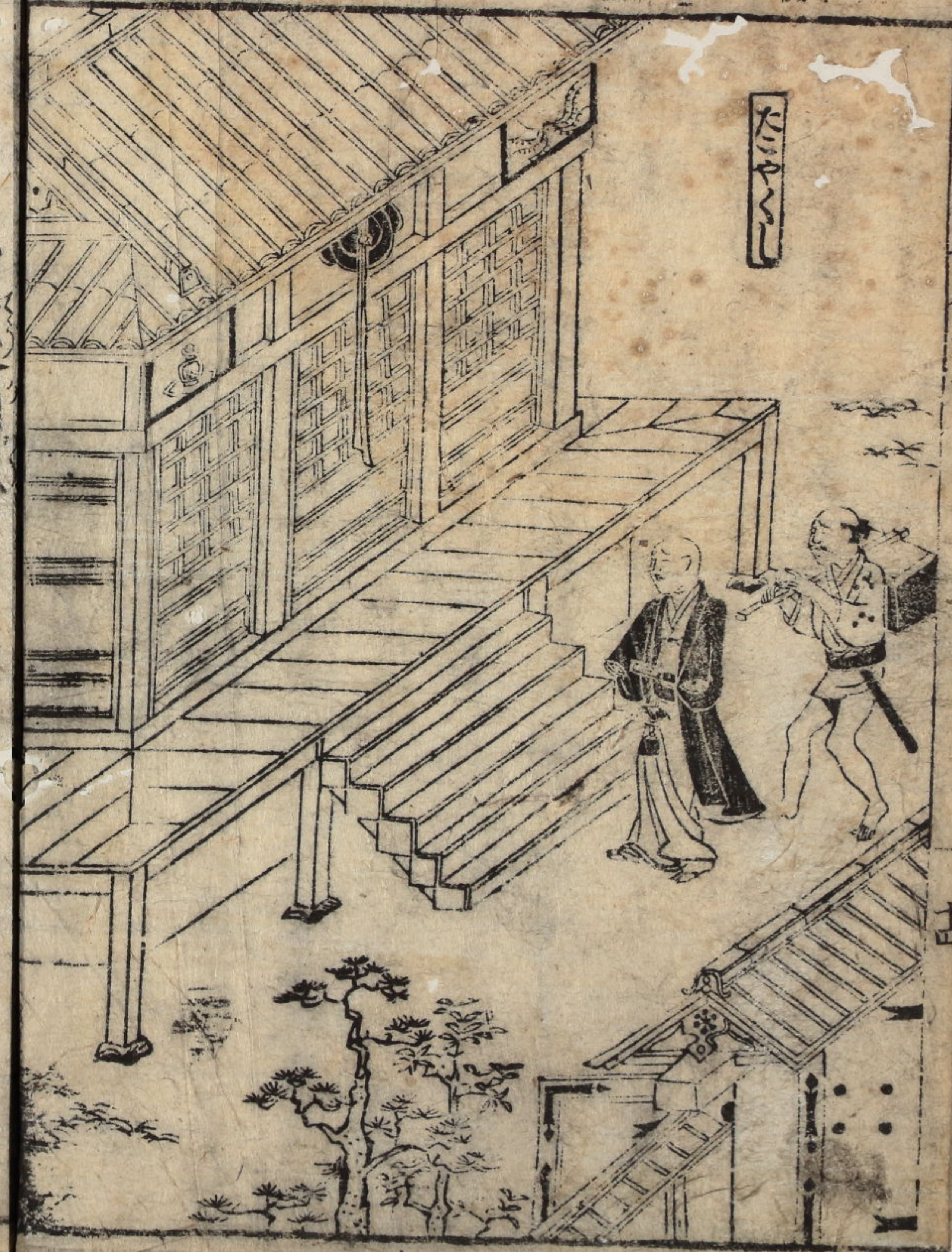




いへりあくまのむすめは、  
このころのむすめは、  
これまた、  
そして、  
てだ、  
の、  
と、  
ふ、  
人、  
こ、  
た、  
こ、  
う、  
い、  
く、  
う、

たひけあひのむすめは、





四條河原

ちぎりのの南戸とてね猫さまのあんなのこあわ  
 たり矢金とあがひきい港のこがいのあわりの  
 男共とてうみさあわひいここれそりたら梓をわ  
 えかことうかりかりのうとものあはまきふもあ  
 わるいことうましんとな織のておぬこの後お  
 うわいせひとあわいせしこづさといかぬや評  
 ぶの森とまがひもあ一歩のこいゆ号ととう更  
 心とあしし念佛とあわりのきへな又刀ととうこ  
 田々の袋米とてあ舞ととぞれとうぶさこらひ  
 おしとたさくらんびりいあわことういんいとう海

























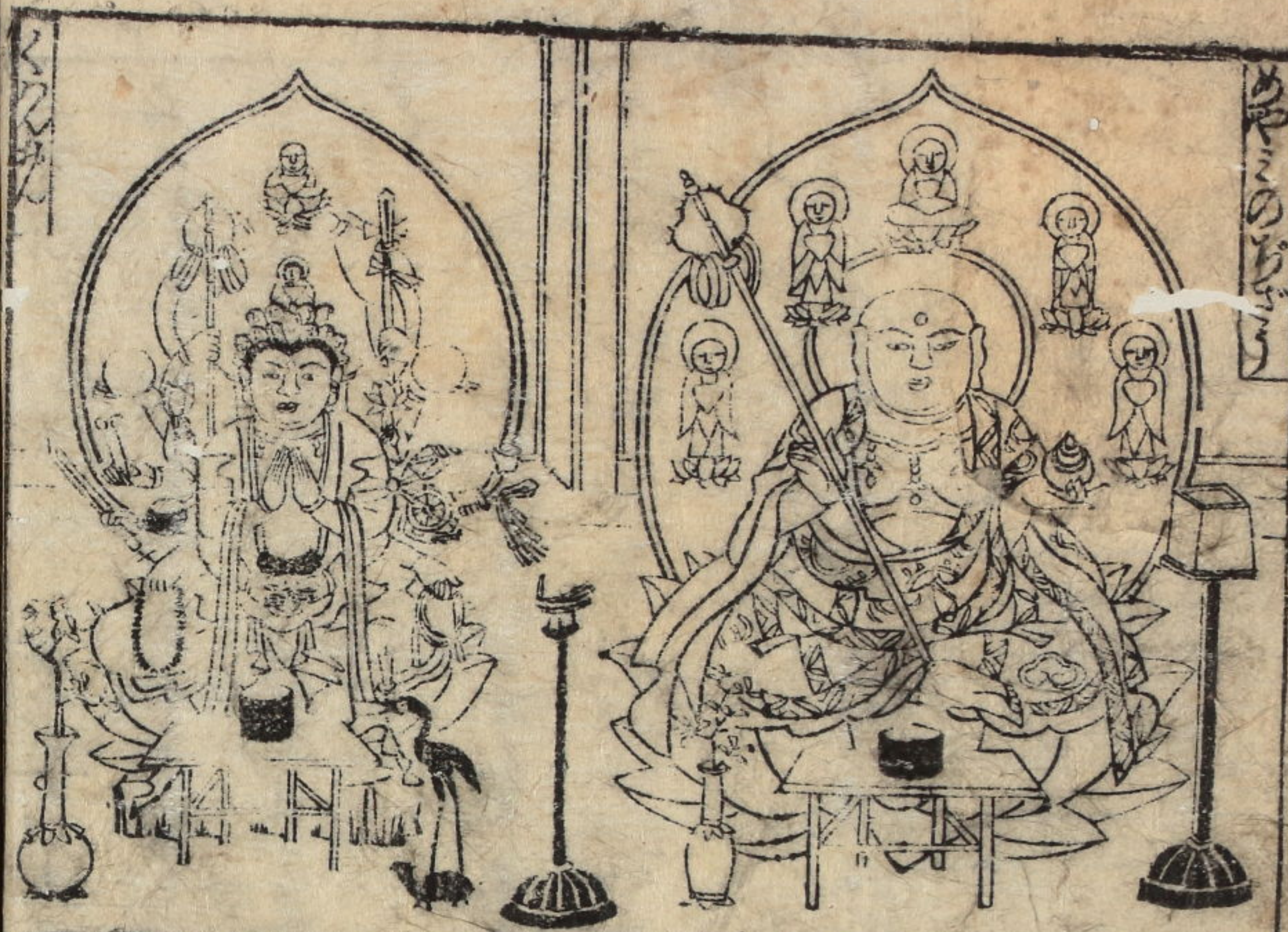


目やしの地蔵 付 桂橋の地蔵の事

家のらんおんけいさやうとやしてびし  
あれなりはありーとめいへんあまはまら  
うりーまはけいさやうふんきん  
さつ橋の橋ぐらうゆやまもよられすお  
りら桂橋のまやぶるんけいさやこの地蔵  
すのちおんおん乃まんがらぬ中よりかりお  
けありあんがらるやそれいさちふおん  
こゝたまふあてゆり服表とつらくまのうら  
こゝかたきあけいさやうたがらうたは同  
しと橋の目やしの地蔵の事ありん  
まのひおん人ともまあて地蔵の事あり  
られおんあまらうのりまらりゆらなる  
おんと地蔵とあひいしてたりーま  
相

あひいふとあまの地蔵と  
あまらんけいさやうの事あり





祇園

蓋社に侍時、侍時無のみしもの内子そさのせれ  
 見しとあり、げ見しとおむのふそくも、唐乳豆唐  
 乳乃びとぬ、指田、かこらりせたまはんとて、八波  
 乃大腕とたつとをなす、ふよたうらなうり八波乃  
 雲おりの海とあり、先たまふらねとお海乃びとむの  
 海とあり。二将乃神、其のあつあり、見しとつみ、  
 先しとせたまはひ、うらり

八波乃山つり、八波乃山つり、まこ、先し  
 やん、つり、ふそのやん、つり、まこ  
 是二十一字の海、其のあつ、先し、つり、まこ



心と云々人々を統りてまきし神也。清和天皇の御  
 時貞観十一年乙卯壬午の御時。比地よりうたて  
 ずつる半歌天宮と申す。武尊天神と申す。わたり  
 ひこしと南海の女子よか。うたたまひ。向日の  
 まは宿をうりたまひ。おがし。うた。藤原の  
 本し。巨匠おま。うた。兄。あり。あり。あり。あり。  
 半。う。く。お。く。の。巨。匠。い。め。り。こ。た。ん。ま。宿。  
 うりたまひ。うた。わ。を。ら。く。に。こ。た。ん。う。た。ま。ま。  
 う。た。ま。ひ。い。ん。ま。た。り。あ。ら。そ。の。ち。こ。た。ん。と。こ  
 ろ。を。た。ま。ふ。あり。今。令。神。あり。こと。つ。ひ。そ。ひ。  
 半。う。た。ま。ひ。お。ま。の。精。靈。あり。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。  
 たり。お。ま。の。皇。統。あり。お。ま。の。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。  
 民。お。ま。の。お。ま。の。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。  
 と。の。御。魂。と。そ。の。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。  
 て。六月。す。の。の。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。  
 と。そ。の。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。  
 神。の。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。  
 と。ら。の。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。  
 ら。の。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。  
 の。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。  
 う。て。お。ま。の。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。と。う。た。ま。ひ。

一六

社四

















ちか  
ん

象山

けいおん<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>り<sup>ま</sup>安<sup>ま</sup>養<sup>ま</sup>さ<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>い<sup>ま</sup>也<sup>ま</sup>時<sup>ま</sup>ふ<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>れ<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>極<sup>ま</sup>ひ<sup>ま</sup>と  
 人の<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ど<sup>ま</sup>高<sup>ま</sup>さ<sup>ま</sup>ハ<sup>ま</sup>執<sup>ま</sup>人<sup>ま</sup>に<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>ま</sup>く<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>せ  
 こ<sup>ま</sup>あり<sup>ま</sup>家<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>い<sup>ま</sup>音<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>音<sup>ま</sup>水<sup>ま</sup>乃<sup>ま</sup>お<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ふ  
 は<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>す<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>流<sup>ま</sup>ひ<sup>ま</sup>也<sup>ま</sup>是<sup>ま</sup>為<sup>ま</sup>法<sup>ま</sup>和<sup>ま</sup>尚<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>事<sup>ま</sup>又<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>が  
 ろ<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>山<sup>ま</sup>下<sup>ま</sup>り<sup>ま</sup>あり

我<sup>ま</sup>意<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>ね<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>られ<sup>ま</sup>乃<sup>ま</sup>先<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>事<sup>ま</sup>

ま<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>く<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>り<sup>ま</sup>同<sup>ま</sup>さ<sup>ま</sup>り<sup>ま</sup>あり

是<sup>ま</sup>為<sup>ま</sup>法<sup>ま</sup>和<sup>ま</sup>尚<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>方<sup>ま</sup>我<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>為<sup>ま</sup>れ<sup>ま</sup>が<sup>ま</sup>け<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>れ<sup>ま</sup>付<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>け<sup>ま</sup>で  
 こ<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>い<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>ま</sup>で<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ふ<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>ひ<sup>ま</sup>く  
 ひ<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>に<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>り<sup>ま</sup>あり





あまのこ

あまのこのかん乃ゆらんつまうなぞんらん  
 うしてゆまにありたりうの流れきさうたん  
 まいじん院平あめいさうのくらこのまうつせ  
 たまひ清物あわり一内あんとくせんまうのい  
 ると張つらうされとほいそへめひてづまこの  
 てし乃ぢうまのなり

花うさそまふやわけそのあまのこ





長らじく

お茶一椀

あやうくはげしくいふまにうんびてんくまうの柳  
 くらげのあめごあんとして八尺の古陽人  
 けりけりあがりのうらうとさうをくららよのゆ  
 こまともうを面待みーいーびりをたをてこの  
 山とーうらうとさうをくららよのゆ  
 のうーいあんどーする也  
 目くらま究うらねさまうらう流代あれの  
 けりけりあがりのうらうとさうをくららよのゆ











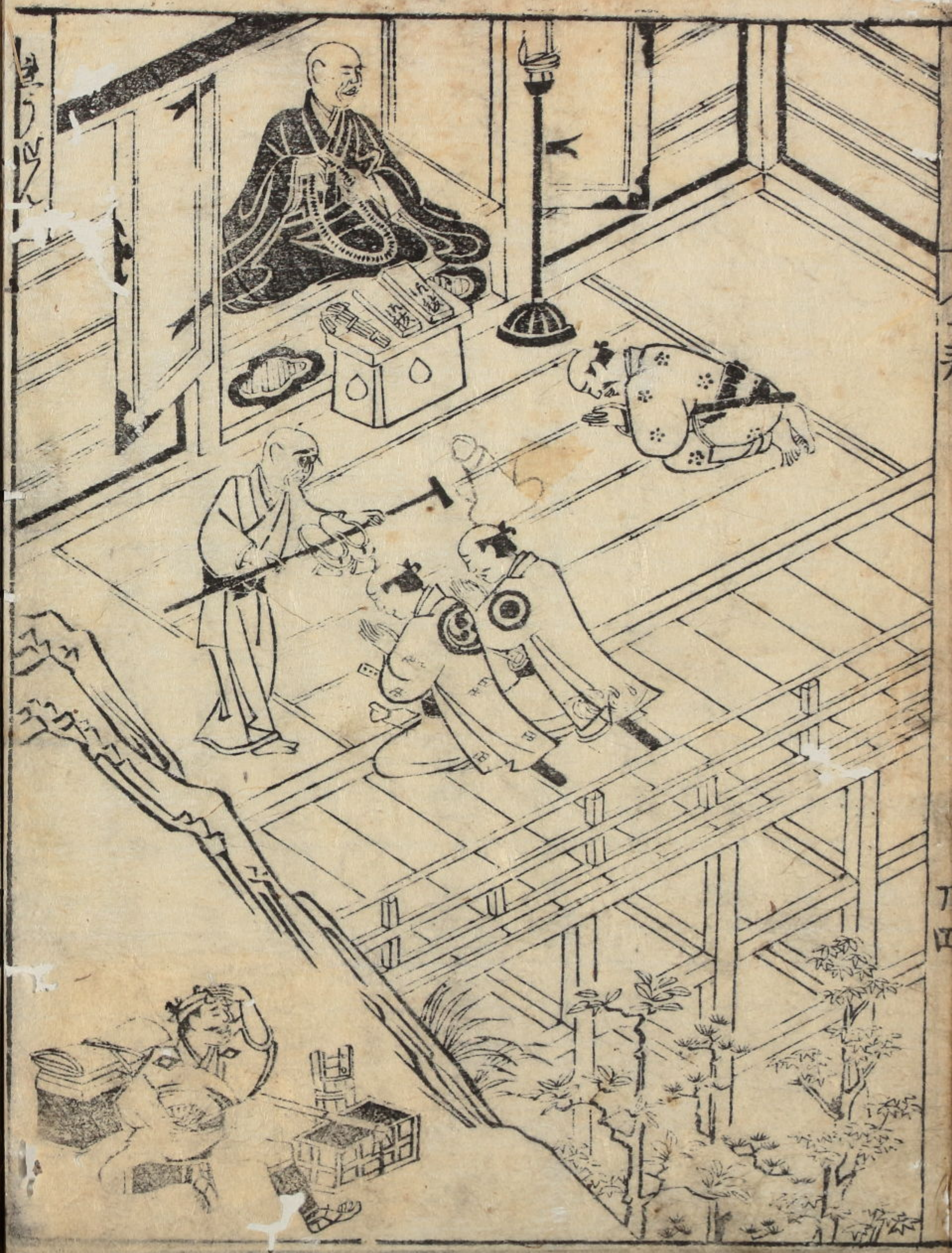


りしとひのほ。又塔花のまにありきり花ぬを  
 人敷す人まうに。塔花ののろ声たをこころにそ  
 まくさうぞくの勢。かきまのこころにありきたら  
 じくこみでちうく。のりまもえきば。さあ  
 うあまりおれ。かかしのあまのまきれ  
 ばさうはうあれ。とあり。あられは塔に  
 ちう  
 ちう  
 花のとりり塔よりあわれみ十日









きん福ん坂又きん福の坂をま

あまきん福ん坂といふ大回とよよしあき  
 ぶしん三由坂といふありともなり又やとま  
 懐りつできたる坂ありゆへきん福ん坂といふ  
 ところきん福ん坂といふきん福ん坂といふ  
 きのちんし一理はゆらありがやうのまへや  
 うのころさうさけうらあき  
 屋いりひきくあきんこのころ  
 きはあきうらあきまのころ





春庭のふゆもたう

もろあー人の春のふゆもたう  
 又目のもれ人乃春のふゆもたう  
 う也らう海屋のりひまもたう  
 たひらぬの海屋のりひまもたう  
 あんつもうわりー也海屋のりひまもたう  
 丹前老乃板よらやとのたうわり  
 川ありそらとありえけ板もたう  
 いわやまりふもたう海屋のりひまもたう  
 きけハ一あがもたう一あはえもたう  
 にのたてまらうもたう海屋のりひまもたう







1840





